



Title	自閉スペクトラム症の感覚処理傾向と発話聴き取りの特徴について [全文の要約]
Author(s)	柳, 民秀
Citation	北海道大学. 博士(教育学) 甲第15803号
Issue Date	2024-03-25
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/92374">http://hdl.handle.net/2115/92374</a>
Type	theses (doctoral - abstract of entire text)
Note	この博士論文全文の閲覧方法については、以下のサイトをご参照ください。
Note(URL)	<a href="https://www.lib.hokudai.ac.jp/dissertations/copy-guides/">https://www.lib.hokudai.ac.jp/dissertations/copy-guides/</a>
File Information	RYU_Minsu_summary.pdf



[Instructions for use](#)

## 博士論文要約

### 自閉スペクトラム症の感覚処理傾向と発話聴き取りの特徴について

柳民秀

自閉スペクトラム症 (ASD) は発話聴き取りに困難を示すことが知られている。本論文では、3つの研究を通して、各特性同士の関連や ASD と非 ASD の聴覚的言語処理の特徴を調べることで、ASD が発話理解に困難を示す要因について感覚・知覚処理の観点から明らかにすることを目的とした。第1章では、先行研究を整理した上で本研究の目的を示した。第2章(研究1)では、ASD 特性と感覚処理傾向との関連について検討した。第3章(研究2)では、ASD 特性、感覚処理傾向と音声知覚傾向との関連について検討した。第4章(研究3)では、ASD 特性、感覚処理傾向と発話理解の特徴との関連について検討した。第5章では、研究1、研究2、研究3の結果を総合し、ASD が発話理解に困難を示す要因について考察した。

#### 第1章 問題

先行研究を整理した上で本研究の目的を示した。はじめに、聴覚的言語処理の過程について解説し ASD がいずれかの過程に困難を示している可能性について述べた。次に ASD が持つ ASD 特性や感覚処理傾向、ASD の音声知覚特性や発話知覚・理解の特徴について、先行研究を基に説明した。最後に、先行研究の検討により導き出された課題を提示した上で、本研究の目的を示した。

#### 第2章 ASD 傾向と感覚処理傾向の関連 (研究1)

研究1として、自閉症スペクトラム指数 (AQ) で測定した ASD 特性と、青年成人感覚プロフィール (AASP) で測定した感覚処理傾向との関連を調べた。ASD 診断を受けた診断群と AQ 高群、AQ 低群の3群で比較した結果、診断群と AQ 高群が AQ 低群に比べ感覚処理傾向の非定型性が強いことが示された。また、診断を受けているかどうか AQ の下位尺度である「細部への注意」がかかわっている可能性が示唆された。

#### 第3章 ASD における音声知覚傾向の特徴 (研究2)

研究2として、発話における音高変化検知と間隔変化検知の成績を ASD 群と非 ASD 群で比較した。また、音高変化検知・間隔変化検知の成績と、AQ、AASP の関連を調べた。その結果、音高変化検知と間隔変化検知の成績は ASD 群と非 ASD 群に差は見られなかった。また、非 ASD 群は日本語において意味処理との関連が強い間隔変化検知を優先する傾向がある一方で、ASD 群にそのような傾向が見られないことが示された。さらに、間隔変化検知に、AASP における低登録傾向や、AQ におけるコミュニケーション、想像力、注意の切

り替え領域の ASD 特性がかかわっている可能性が示唆された。

#### 第 4 章 ASD における発話聴き取り理解の特徴 (研究 3)

研究 3 として、発話理解の成績と、発話の主旨と関連する単語と関連しない単語のどちらに注意を向ける傾向があるかを、ASD 群と非 ASD 群で比較した。また、発話理解の成績、単語に注意を向ける傾向と AQ・AASP 得点との関連を調べた。その結果、ASD 群と非 ASD 群で発話理解の成績に有意差は示されなかった。ASD 群は非 ASD 群に比べ、発話の主旨と関連する単語に注意を向ける傾向があることが示された。また、発話理解に困難を示す傾向と AASP における低登録傾向が関連している可能性が示唆された。

#### 第 5 章 総合考察

研究 1, 2, 3 を総合して考察を行った。本研究の結果、ASD の発話聴き取り時の音声知覚や理解の困難さに低登録傾向がかかわっていることが示された。また、条件次第では ASD においても意味処理が可能であることが示された。部分処理・全体処理の観点から考察すると、発話聴き取り時に ASD は部分処理を優先する傾向があることが示唆された一方で、条件次第では ASD においても発話聴き取り時に全体処理が可能であることが示された。これらの知見から、ASD の発話理解に対する支援に、感覚処理傾向のアセスメントが重要であることと、意味処理・全体処理に焦点を当てるような働きかけが有効であることを示された。